

シーガーデンシティ構想

「新たな安全」と「新たな賑わい」を創出する取組を一体的に進め、魅力あるまちづくりを行う吉田町独自の取組

1000年に1度の大津波に備える 津波防災まちづくり

- ・命を守る対策
- ・財産、生産活動を守る対策
- ・被災時の生活支援対策



新たな人の流れを作る 賑わいまちづくり

- ・北オアシスパークからの情報発信
- ・シーガーデンでの賑わいづくり
- ・空港と沿岸部を結ぶ海の道（オーシャンロード）の活用

豊かで勢いのある魅力的なまち

住吉防潮堤

吉田漁港から坂口谷川河口までのエリア。
今後、延長約2.5kmの防潮堤整備を進めていきます。

川尻防潮堤

大井川の河口から吉田漁港多目的広場までのエリア。
令和4年3月に延長約2.3kmの堤体が完成しました。

本町は、東名高速道路吉田ICが昭和44年2月に開設されて以来、大井川の豊富な伏流水の恩恵により製造業を中心とする企業立地が進み、人口が増加し続けてきました。しかし、東日本大震災の発生を受け、駿河湾に面した平坦な地形の本町は津波被害が憂慮される安全を失ったまちと見られるようになり、町制施行後はじめて人口が減少に転じました。これに加え、今後は少子高齢化・人口減少社会の本格的到来も憂慮されます。こうした背景から、安心して町民が生活し、また企業が生産活動を展開できるよう「津波防災まちづくり」を推進して新たな安全を確固たるものにするるとともに、新たな賑わいを喚起する取組を同時に進める「シーガーデンシティ構想」によるまちづくりを進め、「豊かで勢いのある魅力的なまち」の実現を目指しています。

空港や吉田ICから
沿岸部への人流を創出

富士山静岡空港

東名吉田IC

展望台小山城

物資供給拠点確保事業区域

企業活動維持支援事業区域

県営吉田公園

構想策定の背景

東日本大震災の発生

町を取り巻く環境が変化

自然災害リスクの顕在化

最大津波高 **9.0m**

津波到達時間 **5分**

町面積の約**40%**、人口約**17,000**人が浸水被害を受けると想定された。
(平成23年11月公表)

人口減少への対応

震災の影響を加味した町独自の人口推計では、今後人口が大きく減少すると予測された。

これからのまちづくりの課題

- 自然災害への備え
- 定住人口の確保
- 産業振興・雇用確保
- 交流人口増加への取組
- 町の魅力や個性の活用
- 地域、企業との協働

新たな安全と
賑わいが必要